



9/9 なまこ壁の民家が市に寄贈されました

ペリーロード沿いのなまこ壁の民家「澤村邸」（大正初期建築）の寄贈式が行われ、所有者の澤村紀一郎さんから石井市長に目録と建物の鍵が手渡されました。この建物は、下田市歴史的建造物にも指定されており、市では庁内検討委員会を設け、この建物の有効活用について検討を進めていきます。



9/15 長寿を祝って 敬老会

市民文化会館で敬老会が開かれました。今年米寿を迎える方の長寿を祝い、代表者へ記念品が贈られたほか、模範老人表彰や敬老功労者表彰などが行われました。また、かわいい子どもたちのフラダンスや演芸（漫才・ものまね）、お楽しみ抽選会も催され、参加した636名の皆さんは、楽しいひとときを過ごしました。



9/6 外へ出て体を動かそう

日本サッカー協会のキッズサッカー教室が白浜小学校グラウンドで開かれ、白浜・下田保育所、白浜幼稚園の5歳児33名が参加しました。子どもたちは、コーチの指導のもと夢中でボールを追いかけていました。



8/27 子育てと絵本と鳥の巣の不思議

下田市女性の会主催の男女共同参画講演会が、絵本作家で鳥の巣研究家の鈴木まもるさんを講師に文化会館で開かれました。参加した親子70人は、珍しい鳥の巣や絵本の原画を見ながら、命の大切さや親子のつながりなどを学びました。



9/1 東海地震に備えて

総合防災訓練が下田港周辺を会場に行われました。訓練には、自主防災会、高校生など420名が参加し、治療の優先順位を決めるトリアージの説明やAED（自動体外式除細動器）の取扱い、応急手当などを学びました。

1日	総合防災訓練（会場訓練）
3日	式根島親善訪問
6・7日	ビッグシャワー in 吉佐美大浜
7日	下田市職員採用試験（第2次）
8日	第4回1市3町合併協議会（南伊豆町）

OPEN PLAN

11日～	9月定例市議会
15日	下田市敬老会
21日	市内中学校 運動会
22～30日	秋の全国交通安全運動
27日	市内小学校 運動会

下田市内の指定文化財 その39

火達山遺跡

所在地 下田市白浜
指定日 昭和49年3月20日



火達山遺跡

われている狭い海岸と長田浜の間の小高い場所にあります。現在は樹木や海浜植物に覆われ、足を踏み入れる余地などありませんが、この周辺からは、奈良・平安時代に比定される多数の土師器や須恵器が発見されています。これらの中からは、祭祀に関わるような特殊な遺物は発見されていませんが、白浜神社に伝わる白浜明神縁起の内容などからこの遺跡は祭祀遺跡であると考えられています。



出土した土器（白浜神社蔵）

祭祀遺跡
古代、神をまつる儀式が行われた場所や、そのために使われた特殊な遺物が発見される遺跡を祭祀遺跡といいます。賀茂郡下には現在7カ所の祭祀遺跡が知られていますが、そのうちの5カ所が下田市内にあり、下田は祭祀遺跡の多い場所として知られています。火達山遺跡は白浜神社境内の北側、地元でオリットとい

火達祭と御幣流し祭
毎年10月に開催される白浜神社例大祭で行われる行事に火達祭と御幣流し祭の神事があります。
例大祭の初日に海岸で火を



火達祭の神事

焚き、鳥々の神に祭りの始まりを知らせるような行事が火達祭で、この行事からお祭りが始まります。最終日の夕方には、祭りが終了したというしるしのお札を海に投げ入れる、御幣流し祭と呼ばれる行事を行って祭りは終了します。海に御幣を投げ入れると御幣西と呼ばれる西風が吹き、御幣は沖の島々に流れ着いたと伝えられています。この神事は、祭祀の場所がその後、神社に発展し、現在まで祭祀が続いているものとも考えさせられる、大変興味深い内容の行事です。

アクセス
伊豆急下田駅より板戸一色行きバス 神社前バス停下車 問合せ先
教育委員会生涯学習課

☎ 5055

市役所から
しんは
vol. 2

下田まち遺産を未来へ

下田に住んでいる人が、毎日うれしく暮らせるまち。下田にきた観光客の人が、楽しく過ごせるまち。下田がそんなまちであるために、景観を活かしたまちづくりを進めようと、景観計画の策定に取り組んでいます。

現在、市民の代表の方、建築や看板の作成などに関わっている方、景観に関連する幅広い知識をお持ちの方、景観に関する専門家など、市内外の方々の参加をいただき、検討しているところです。

下田を魅力的で美しいまちにしたいためには、下田の人たちが昔から大切にしてきた自然・歴史・文化・人の暮らしなどで、これからは大切にしていきたいものを「下田まち遺産」と定め、それを「知る」、「育てる」、「ささえる」しくみをつくり、未来へつなげていくことが重要だと

考えています。特に「ささえる」しくみとして、歴史的な建造物などを残していくためのしくみ。また、これから建てられる建築物等について、施主の方々が景観に配慮していただくためのしくみ。そして、頑張っている人たちがバックアップするしくみが大切だと考えています。

景観計画は、単に規制するものではなく、下田に暮らす一人ひとりが、景観を意識し、行動していただくための計画書にしたいと考えています。自然や歴史・伝統を大切にしながら、一人ひとりの個性的な気持ちは表現されたとき、下田らしいまちなみが創られていくことになるのだと信じています。

来月、景観計画の素案について、地域別（6地域）に見交換会を開催いたします。多くの方

に参加していただき、ご意見をお聞かせ願います。宜しくお願いします。
（建設課 平川博巳）

